

ギフチョウ アゲハチョウ科

早春まだ残雪が残っている頃、人里近くの林にヒラヒラとまう中型の美しいチョウです。春先に成虫が出現し、主にカタクリやスミレの花を訪れて蜜をすいます。日本だけにいるチョウで、本州にのみ生息しています。石川県では近年、すんでいる土地が開発されたり、雑木林の手入れをしなくなったことで少なくなっています。



写真提供：富沢 章氏

形態・生態

羽を広げると5センチメートルくらいで、黄色と黒色のだんだら模様です。後羽のふちにはカキ色と青色のはん点が並び、それぞれ1つずつの赤いはん点と尾のような突起があります。

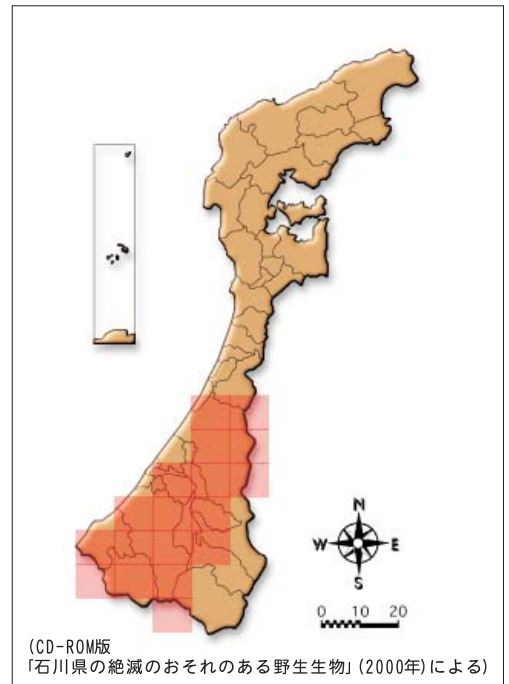
よう虫はカンアオイ類の葉を食べます。成虫は明るい林の中を飛び、山頂部や尾根などの明るい場所に集まります。タマゴはカンアオイ類の新しい葉の裏側にまとめて産みつけられ、約2週間でふ化します。よう虫期は約40日で地面近くでサナギとなり、夏から冬をそのまますごします。

調べやすい時期（成虫）

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

県内の分布

能登地方には分布していません。金沢市をとおる北陸自動車道より南の山地に広く分布しています。しかし、金沢市戸室山・キゴ山周辺とその北西部一帯、手取川ダムより奥の右岸側、吉野谷村中宮の集落より奥と、標高1,000メートルをこえる地域では見つかりません。



見つけやすい場所

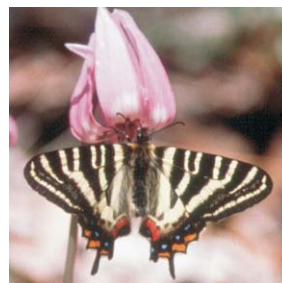
田んぼとコナラなどの林がせっしている300メートル以下の山に分布しています。林の下にはよう虫が食べるカンアオイ類がたくさんはえ、春は明るく夏はうす暗い所に多く生息しています。金沢市周辺ではカタクリがさくようなモウソウチク林にも見られます。



ヒメカンアオイ（よう虫が食べる）

まちがしやすい種類

アゲハチョウと似ていますが、大きさはアゲハチョウよりも一回り小さく、羽のもようがちがいます。



ギフチョウ



アゲハチョウ